

輸液フィルターによる 輸液療法の安全性向上への貢献



医療機関での治療で一般的な方法の一つとして用いられる“点滴”は、水分や栄養あるいは医薬品を時間をかけてゆっくりと静脈から体内に投与する療法です。ガートル台に掛かった輸液剤から自然落差でポタポタと血管内に投与する様子などから点滴という呼称が一般的に定着していますが、専門的には“輸液”と呼びます。

医療機関では細心の注意を払っていますが、輸液は直接患者の静脈に投与されるという特性から、細菌汚染による感染症・敗血症や異物・空気混入による塞栓症を引き起こすリスクがあります。パールの輸液フィルターは、こうした輸液の潜在的なリスクを防ぎ、安全な輸液療法を実現しています。

1. 輸液療法の目的

輸液療法の目的は下記の3つに分けられます。

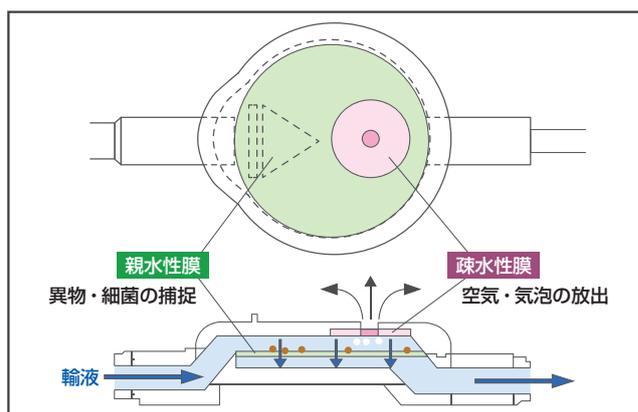
- 1 体液管理 …… 脱水症状の改善、血液量・電解質量の維持等
- 2 栄養管理 …… 食事や水分補給が経口摂取できない場合に、必要な水分量や栄養素を補う
- 3 血管確保 …… 希釈を必要とする医薬品を体内に投与するための経路を確保する

2. 輸液療法のリスクと輸液フィルター

輸液療法では複数の医薬品を混合して投与することが多く、ガラス容器の医薬品やゴム栓を用いた容器の医薬品を混ぜて患者に投与します。この時、ガラス容器を開封する際に目に見えないほどの小さな破片や、ゴム栓に注射針を刺した時のゴム片が医薬品に混入することが知られています。また複数の医薬品を混ぜた輸液剤の中で化学変化が起こり、医薬品ではない全く別の化合物として異物になることもあります。

また日常的に細心の注意が払われていますが、医療従事者の薬剤混合・投薬行為において、真菌(カビ)や細菌、空気が予期せず輸液剤に混入してしまう事もあります。

パール輸液フィルターELDやIV-5は孔径 $0.2\mu\text{m}$ という膜で異物や細菌を捕捉し、さらに疎水性の膜で輸液剤に混入した空気を大気中に放出して、患者の静脈に直接入る恐れのあるリスクを除外します。





3. 小さな命を守る輸液フィルター

輸液療法を受けるのは成人だけとは限りません。新生児は成人に比べて身体構成成分における水分の割合が高く、短時間で脱水症状に陥りやすく、体液管理が大切となっています。

また、早産などで出生時の体重が2,500g未満の低出生体重児、いわゆる未熟児は腸管が未成熟となっているため、輸液による栄養補充が不可欠となっています。保育器の中で輸液を受ける小さな体には大人のような異物や感染症に対する抵抗力はありません。

1円硬貨ほどの大きさのNEO96やMicro-IVといった輸液フィルターで、小さな命を守っています。



4. ポール輸液フィルター

日本ポールでは、自社のブランド製品に加えて、医療機器メーカー向けOEM製品もラインナップしています。成人向けおよび新生児向けに下記のような製品をご用意しています。

日本国内だけではなく、世界中の医療機関でポール輸液フィルターは用いられており、長年の輸液療法の安全性を支えてきました。私たちはこれからも輸液フィルターを通じて医療の安全性の向上に貢献していきます。

製品写真					
販売形態	日本ポールによる製造販売製品			OEM供給製品（他社ブランドでの販売製品）	
販売名	ポール輸液フィルター-ELD		ポール輸液フィルター リピポア	Micro-IV	IV-5
製品番号	ELD96LLC ELD96LYL ELD96NT	NEO96J NEO96LJ (新生児向け)	NLFLJ	69324421 69384421 (新生児向け)	7024400
親水性膜	ナイロン66		ポリエーテルスルホン		
疎水性膜	PTFE（ポリテトラフルオロエチレン）				

お問い合わせ

詳しい内容につきましてご質問がありましたら、下記までお問い合わせください。

【メディカル事業部】 TEL.03-6386-0991